

公立大学法人奈良県立医科大学 医学部看護学科紀要

特別寄稿

大学院に期待するもの—大学院開設を記念して—

飯田 順三…………… 1

総説

わが国における褥瘡管理の変遷と最近の話題

石澤美保子…………… 4

原著論文

乳房ケア提供者が必要と考える乳房ケア室の環境の検討（第2報）

泉川 孝子…………… 15

ハイデガーの根源的倫理学

—人間の本質としてのエートス—

池辺 寧…………… 23

研究報告

総合看護学実習における複数患者受け持ちによる実習効果

—成人看護学領域における検討—

松清由美子…………… 31

術後10年までの乳がん患者の乳房再建、セクシュアリティとソーシャル・サポートに関する研究

高井 俊子…………… 40

実践報告

周手術期看護学実習におけるシャドーイングの必要性

長田 艶子…………… 52

看護学生が学んだ異文化の医療

—国際看護論チェンマイ大学研修報告—

山名香奈美…………… 57

翻訳

フィリップ・デイヴィス『バーナード・マラマッド—ある作家の生』（1）

勝井 伸子…………… 64

紀要編集部会規程…………… 79

紀要編集発行規程…………… 82

編集後記

BULLETIN OF FACULTY OF NURSING, SCHOOL OF MEDICINE, NARA MEDICAL UNIVERSITY

Special Contribution

Expectations for graduate school Junzo IIDA..... 1

Review Article

Progress and recent topics for Management of Pressure ulcer in Japan Mihoko ISHIZAWA..... 4

Original Articles

The Desirable Indoor Environment for the Breast Care Room from a Medical Staffs' Attitude Survey (Part2)
Takako IZUMIKAWA..... 15

Heideggers ursprüngliche Ethik

Ethos als das Wesen des Menschen Yasushi IKEBE..... 23

Research Reports

The effect of taking charge of plural patients in comprehensive nursing practice
— Examination in the field of adult nursing — Yumiko MATSUKIYO..... 31

Analysis of the Cognition of Breast Reconstruction, Sexuality, and Social Support for Post-operative Women with
Breast Cancer until ten years Toshiko TAKAI..... 40

Activity Reports

Necessity of Shadowing for Perioperative Nursing Practice Tsuyako NAGATA..... 52

The Experience of Nursing Students in Transcultural Health Care: The Report of The Study Tour as a part of Interdisci-
plinary Perspective on International Health Care Course at Chiang Mai University Faculty of Nursing
Kanami YAMANA..... 57

Translation

Translation of *Bernard Malamud: A Writer's Life* (1) Nobuko KATSUI..... 64

Guide to Contributors..... 79

奈良県立医科大学医学部看護学科紀要編集部会規定

(目的)

第1条 この規定は、奈良県立医科大学医学部看護学科看護教育協議会規定（平成16年4月1日）第5条6項の規定に基づき紀要編集部会(以下「部会」という)の設置及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員会の名称及び構成)

第2条 紀要編集部会の名称は奈良県立医科大学医学部看護学科紀要編集部会とし、看護教育協議会規定に基づく。

2 前項の規定にかかわらず、特定の事項を調査又は審議するために、紀要編集部会の議を経て、小委員会を設けることができる。

(委員)

第3条 紀要編集部会の部会員は、若干名をもって組織する。

2 部会員は次の各号に定める教職員とする。

(1) 看護教育協議会が選出した専任教員

(2) 調査又は協議する事項に関する事務を所挙する事務部長又は学務課長の指名した事務職員

3 部会員の任期は2ヵ年とする。ただし、再任を妨げない。

4 部会員が欠けたときは、すみやかに補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 紀要編集部会に部会長を置き、部会長は、他の規定に特別の定めがある場合を除いて、各部会員の互選とする。

2 部会長に事故又はその他のやむを得ない事由があり部会に出席できないときは、あらかじめ部会長が指名する部会員がその職務を代行する。

(副部会長)

第5条 紀要編集部会は副部会長を1名置き、部会長が任命する。

2 副部会長は部会長を補佐し業務を遂行する。

(会議)

第6条 紀要編集部会長は、必要のつど編集部会を招集し、議長となる。

2 部会は、部会員の3分の2以上の出席がなければこれを開くことができない。

3 部会は、必要と認めるときは、部会員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 紀要編集部会は、審議の経過及び結果について、看護教育協議会に報告しなければならない。

(書記)

第8条 紀要編集部に書記を置く。

2 書記は、部会長の命を受け、会議の記録を行う。

第9条 会議の記録は紀要編集部会長が保管する。

(その他)

第10条 この規定に定めるもののほか、必要な事項は、紀要編集部会で協議して定める。

2 紀要編集発行規定は紀要編集部会の議を経て別に設ける。

第11条 本規定に変更ある場合は、紀要編集部会の議を経て変更することができる。

付 則

この規定は、平成16年4月1日から施行する。

奈良県立医科大学医学部看護学科紀要編集発行規定

(目的)

第1条 奈良県立医科大学医学部看護学科（以下「看護学科」という）は、その教育と研究の諸活動を発展させ、高等教育機関に課せられた社会的責務を果たし、学術の進歩に貢献することを目的として紀要を発行する。

(名称)

第2条 看護学科が発刊する紀要の名称は、「奈良県立医科大学医学部看護学科紀要」（以下「紀要」という）とする。なお、英語での名称はBULLETIN OF FACULTY OF NURSING, SCHOOL OF MEDICINE, NARA MEDICAL UNIVERSITYとする。

(編集機関)

第3条 紀要の編集は、紀要編集部会がこれを行う。

- 2 紀要編集部会については、医学部看護学科看護教育協議会規程の定めるところによる。
- 3 掲載された論文等の著作権は奈良県立医科大学医学部看護学科紀要編集部会に帰属し、医学中央雑誌刊行会及び科学技術振興機構が主催する医学関連文献データベース収載誌にて公開する。

(発行回数及び発行時期)

- 第4条 紀要は、1年度に1回、定期にこれを発行する。ただし、特別に必要があると紀要編集部会が認めたときは、臨時にこれを発行することができる。
- 2 紀要の発行の時期は、3月をもって定期とする。

(掲載範囲)

第5条 紀要に掲載する論文等の種類は、次のとおりとする。

- (1) 総説
- (2) 原著
- (3) 研究報告
- (4) 実践報告・資料
- (5) 講演その他の学会活動についての研究業績
- (6) その他紀要編集部会が適当と認めたもの

(執筆者の範囲)

第6条 紀要に執筆することができるものの範囲は、次のとおりとする。

- (1) 看護学科に勤務する専任の教員および非常勤の講師
- (2) 看護学科の教員を含む共同研究の参画者
- (3) その他紀要編集部会が執筆を依頼した者

(投稿の申し出)

第7条 紀要に投稿しようとする者は、毎年9月10日までに紀要編集部会長に提出する。原則として、原稿は、正1部、副2部、計3部提出とする。尚、副2部は執筆者名および所属は記入しないものとする。

- 2 期限までに原稿の提出がない場合は、投稿申し出の権利は消失する。
- 3 論文の採択は査読者の査読をへて、編集会議で決定する。他の雑誌に発表された論文は掲載しない。
- 4 執筆にあたっては、倫理的に配慮されている旨を明記すること。

(原稿の長さの制限)

第8条 原稿は所定様式(A4版 20×42行横書き2段組)8枚以内とする。

- 2 原稿の枚数が多い場合には、印刷の実費の一部を執筆者が負担することがある。

(別刷の費用)

第9条 別刷りは執筆者の負担とする。

(執筆の要綱)

第10条 原稿の執筆は、次の要領とする。

- (1) 最終原稿は、完全原稿として提出するものとし、写真印刷をする。したがって校正は行わない。
- (2) 専門用語または引用資料以外は、常用漢字、新かなづかい、ひらがなを用い、文体は、口語体とする。
- (3) 外国人名、外国の地名、生物名等をカタカナ書きした場合は、原則として原綴又は学名を活字体で併記するものとする。
- (4) 単位は、m, cm, mm, μ m, nm, pm, Å, l, ml, μ l, mg, μ gなどとする。また、RIの質量は、記号の左上につける。なお、各符号の後ろに点を付けない。
- (5) 掲載原稿には、英文の標題を併記しなければならない。書式は投稿に関する細則に従うこと。
- (6) 総説及び原著論文には、原著論文用原稿用紙第1頁の所定の位置に40×10行程度の日本語の要旨を記す。
- (7) 研究分野によっては、英文を欧文に読み替えることができる。
- (8) 印刷上の都合により原稿等の変更が必要になったときは、執筆者と協議の上、紀要編集部会で決定する。
- (9) 投稿要領の詳細については、別に定める投稿細則による。
- (10) 文献の記載は、以下のように統一する。
 - 1) 引用文献を示す注は、本文中に(筆頭著者の姓、年号)のように括弧書きの割注で示し、論文の最後に文献リストを掲載する。
 - 2) 文献リストは筆頭著者名のアルファベット順(和文・欧文を問わない)で記載し、番号はつけない。また同一著者による同年発表の文献が複数ある場合は、出版年の後にa, b, ……をつける。
 - 3) 著者が複数の場合は、本文中の引用箇所には筆頭著者の後に、「ら」(欧文では「et al.」)を加える。また、文献リストには3人まで著者名を明記し、4人目以降を「他」(欧文では「et al.」)とする。
 - 4) 文献リストの表記の仕方は次の通りとする。

(雑誌掲載論文の場合)

著者名(発行年) : 題名(副題). 雑誌名, 巻(号) : 開始頁-最終頁.

例: Hammond C.B., Weed J.C. Jr., Currie J.L. (1980): The role of operation in the current therapy of gestational trophoblastic disease. Am J Obst Gynecol, 136: 844-858

藤岡完治(1996): 臨地実習教育の授業として成立. 看護教育, 37(2): 94-101.

(単行本)

著者名(発行年) : 題名(副題). 版. 発行所. 発行地(外国語の文献の場合のみ).

例: Beauchamp T.L., Childress J.F. (1994): Principles of Biomedical Ethics. 4th ed. Oxford University Press. New York.

松本光子(1986): 看護実践課程-看護実践の系統的アプローチ. 第一版. 日総研出版.

- 5) 人文・社会科学系の論文にあつては、専攻分野で慣例となっている表記の仕方に従うこともできる。

(規約の改正)

第11条 この規則の改正は、紀要編集部会の審議を経て決定する。

付則

この規定は、平成16年4月1日から施行する。

この規定は、平成19年9月1日から施行する。

編集後記

例年のことながら冬から春にかけては入学試験、卒業、進級、あるいは入学式とあわただしいスケジュールに追われますが、今年は4月からの大学院修士課程の開設準備が加わってさらに多忙な時期であったと思います。そのような中でも研究論文をご投稿いただいた先生方ならびに紀要編集部会からのお願いに快く応じてご寄稿いただいた先生方に感謝申し上げます。

今回は巻頭に飯田順三学科長から大学院開設に際しての苦労話を特別寄稿の形で頂戴しました。また石澤美保子教授にはライフワークの褥創看護についての総説をお願いしました。さらに今回から勝井伸子講師に米国の伝記小説の翻訳を連載していただくことになりました。次巻以降の展開に御期待いただきたいと思います。また、巻頭の飯田学科長の特別寄稿にあるように、学術研究の拠点としての大学院の新設にあたり教員に求められる研究面の進展に、本紀要をご利用いただければ幸甚と存じます。また大学院教育の目的に附属病院との連携強化と看護レベルの向上が挙げられています。さらに貢献できることを求めています。

看護学科紀要は我々からの情報発信の簡便なツールですが、当然ながら掲載内容の主体は研究論文であり、よりレベルの高い、学術的に価値のある論文が望ましいことはいまでもありません。このためには研究論文に対するいわゆる“peer review”がなされています。周知のようにこの査読という作業は極めて面倒で、本紀要の場合は日程に余裕がなく、大変なご負担と考えます。さらに査読にあたっては単に原稿の問題点を指摘、批判するのではなく学術的価値の向上を目指して教育的観点からの指導をお願いしています。このため、査読者のコメントは細にわたって言及してありながら、全体としての姿勢、格調の高さを求めるようなものとなっていました。またこのような指導的コメントに対して、各筆者の受け止め方も極めて前向きで、2回の査読後の最終原稿はずいぶん読みやすくなり洗練されたものとなっています。両者間の信頼関係の表れと考えます。またやり取りの中で本学看護学科紀要の対外的な評価を高めるということに言及する意見をよくお聞きしました。大学教員は教育者であると同時にレベルの高い研究者であることを求められています。まさに“peer review”の利点が強調されるような状況を何度か目の当たりにしました。皆様のご努力に感謝申し上げます。私は optimistic です。

平成 24 年 3 月

奈良県立医科大学医学部
看護学科紀要編集部会
委員長 濱田 薫 拝

平成 23 年度看護学科紀要編集部会

委員長 濱田 薫
副委員長 瀬川睦子
委員 五十嵐稔子
委員 入江安子
委員 上平悦子
委員 勝井伸子
委員 本田由美

奈良県立医科大学 医学部看護学科紀要

VOL 8

印刷 平成24年3月20日

発行 平成24年3月31日

編集・発行者 奈良県立医科大学 医学部看護学科

濱田 薫

印刷所 株式会社アイプリコム

磯城郡田原本町千代360-1
電話 0744 - 34 - 3030
